

## スピーチの方法

### ■ 今回のポイント

- ① スピーチの準備
- ② スピーチメモの作成
- ③ スピーチの実践

#### ① スピーチの準備

会話とスピーチは違います。会話は、相手の反応に合わせて自由に話すことができるのに対して、スピーチは、相手に向かって一方的に話すものであり、伝える工夫が必要になります。

スピーチをする際には、

- (1) どのような内容で話をすすめるのか
  - (2) どのように相手に伝えるのかという表現のしかた
- の二つを事前に準備しておきましょう。

※スピーチ原稿の長さの目安は一分間に三百字程度だといわれているので、それを目安に準備するとよいでしょう。

#### ② スピーチメモの作成

第八回で学んだ構成ノートの作り方を参考にしながら、スピーチの構成を考えてみましょう。

番組では、最初にペタペタ大作戦と称して、付箋をボードにペタペタ貼って、構成を考えていきます。付箋に書く内容は、スピーチで自分が伝えたい事柄です。まずは、それを「はじめ」「なか」「おわり」の三つに分類します。その際のポイントは、結論を「はじめ」に持つてくるといことです。それによって、話しているうちに何を伝えたいのかわからなくなるといったことが無くなります。次が「なか」です。その結論に至った根拠を具体的に述べ、「おわり」として、最後にもう一度、結論や感想を述べて言いたいことを強調しましょう。こういった順序で並べることで、聞き手にとっても理解しやすいスピーチになります。

\* \* \*

次に行うのが、ブンブン大作戦です。ペタペタ大作戦で考えた付箋の内容を文

章化していきます。その際のポイントは、〃センテンスは短くする〃ということ  
です。一文が長いと係り受けがはつきりせず、結局何を言いたいのかわからない  
文章になってしまう可能性があります。

\* \* \*

その次に行うのが、パントマイムです。これは、普段は意識しない、自分の体  
や表情を意識することで、表現を豊かにする練習です。スピーチは聞くものであ  
ると同時に、見るものでもあります。自分の気持ちを身振りや手振りを使って表  
現してみることで、聞いている内容をより理解しやすくなります。

### ③スピーチの実践

原稿ができたなら、発表する前に何回か練習しましょう。鏡に向かって一人で練習  
したり、友人や家族などに聞いてもらい、気が付いた点をアドバイスしてもらっ  
たりするのもいいでしょう。それによって、本番でもあがらずに発表できるよう  
になります。また、実際に発表する際には、声の大きさや抑揚、間のとり方など  
にも注意して話すようにしましょう。

### ■今回のまとめ

スピーチのコツは大きく二つあります。それは、内容と話し方です。まず、し  
っかりしたスピーチメモを作成し、伝える内容を工夫しましょう。ポイントは、  
結論を先にする、センテンス（一文）は短くするということです。読んで伝える  
のではなく、聞いて伝えるということを意識しましょう。

また、実際にスピーチする際には、声の大きさ、抑揚、身振りや手振りなど話  
し方にも注意して発表するようにしましょう。事前に何度も練習すれば、あがら  
ずに話すことができるでしょう。